

ドラマ「坂の上の雲」制作秘話 講演会の感想

丸山暢久（4組）

関東同窓会副会長で73期の掛川治男さんが企画した講演会に参加しました。

講演者はNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」制作責任者だった菅康弘さん。

司馬遼太郎夫人の福田みどりさんから、NHKでのドラマ化を許可された時のプロデューサーが菅さんです。脚本からキャスティング、そして国内外での撮影などで完成までに約10年、撮影だけでも3年を費やした120分/本で13本の大作でした。

2007年11月に撮影が始まった丁度その頃、VFX（CG）が進化し始めてNHKは最新技術を活用しました。音楽も通常はN響がドラマに参加することは無かったですが、菅さんの強い要請で協力を得ることが出来ました。

俳優のキャスティングにも苦心したとのこと、例えば満州軍総参謀長の児玉源太郎役に高橋英樹を配したらその相手は誰が合うかとか、役柄の組合せにもチームで相談して、決めていったようです。香川照之演ずる正岡子規の最後は相当やつれた顔立ちであったが、彼はこの役の為に日々ランニングをし、10kgもダイエットしたようで、役者はその役になり切る為にここ迄やるのか！と感心したとのこと。

撮影は22都道府県に海外12か国に及び、ロシアの宮殿を借りるのには相当な費用が生じたようです。ロシアの担当者は現金で呉れと言うが、それは強く断って銀行振り込みにしたが、その訳は敢えて触れない事にします。

軍艦が沈没するシーンはマルタ共和国の或る場所に巨大なプールがあり、そのプールの水を大きく揺らせながら波立たせて撮影しました。

203高地の攻防戦は函館の山中にある広い牧場？を借り、撮影用の道路を造ったり、エキストラの募集には現地の方々が協力してくれましたが、「あなたには無理だから」と思う人もいました。案の定、撮影が始まると翌日には大半の人が来なくなりました。

その訳はあまりにもハードな活劇で疲労困憊したらしい。

その為、自衛隊に協力を依頼したり消防団に頼んだりして、203高地の攻防戦も無事に山上での勝利の万歳で終わりましたが、その万歳は「これでこのきついエキストラから解放された喜び」からだったというので皆で大笑いしたとか。

毎回、ドラマ最後の画面で映る北アルプスが見えます。中学生の最後に登った燕岳に似ているので聞いた処、長野県から新潟県に跨る小蓮華山だそうです。

サラ・ブライトマンの唄に乗って映像される清々しく穢れの無い自然の山々は信州に生まれ育った私には、何ともいえない吸い込まれるような感覚を覚えました。

小一時間の菅さんの講演が終わり質問タイムに入りました。

私は3つに絞って訊きましたので、夫々の質問について菅さんの回答を以下記します。

丸山 Q1：203高地の戦闘に於いて我々は小さい頃から乃木将軍が奪還したと聞かされてきたが、ドラマでは乃木の作戦は悉く失敗し、しびれを切らした満州軍総参謀長の児玉源

太郎が現地司令部に赴き、乃木と二人の談合の中で指揮権を乃木から譲り受け、漸くロシア軍を破り、203高地を奪還したように見えたが、これは史実か？

菅 A1：史実です。乃木は作戦の殆どを第三軍参謀長の伊地知幸介に任せ、その責任は自分が取るというスタンスだった。

(ウィキペディアを見ると) 乃木は戦法が単純だったのか？ 別の紙面を見ると当時の知識人や軍人のコメントがあり、乃木の作戦について批判や称賛が加えられている。まさしく司馬遼太郎が映像化を懸念した理由がそれだったのだろう。後に軍神と崇められた乃木にいわばケチを付けることになるから。ドラマでも本来同郷の乃木と児玉は親友であるが、戦地から戻った乃木を官舎の廊下で迎えようとした児玉に対し、乃木は何かを言って通り過ぎてしまった。1万人以上の死者を出し延べ死傷者は6万人以上といわれる旅順攻囲戦で、乃木から見たら尊敬する明治天皇の兵隊を失った悔悟の情や心中の悔しさが交ぜになっていたのか？

丸山 Q2：秋山好古も真之も軍の若手高官で出世頭だが、当時はまだ江戸～明治の名残で身分が厳格だったような中で、二人とも貴族の娘と結婚できたのは何故？

菅 A2：好古の嫁の多美は旗本(佐久間正節)の娘で貴族でなく、いわば賊軍の娘。好古の家も武士だったので(釣り合いは別にして)同じ身分。真之の嫁・季子は貴族でなく(宮内省御用掛・稻生真履)の三女で華族女学校に通う才媛。* * 好古, 真之とも 36 歳で結婚。多美は 24 歳、季子は 21 歳 * *

(この項は私の二人の女性の出自の勘違いであった)

丸山 Q3：広瀬武夫少佐と恋仲だったアリアズナのその後？

(ナレーションでは広瀬死後、1年間を喪に服したと言っていたが)

菅 A3：分かりません。只、彼女は貴族の娘なので、その後のロシア革命で不幸になったと推測。

(なおウィキペディアによると) ペテルセンという医者(？)の娘も広瀬に好意を寄せていたようで、広瀬の戦死後、ドイツ語でお悔やみ状を送っています。そこにはローマ字で「TAKEOSAN」と書かれていました。



司馬遼太郎

(2025年3月26日記)

以上